

※※2017年11月改訂(第4版)
※2017年9月改訂

貯 法：遮光、気密容器、室温保存
使用期限：外箱、容器に記載あり(使用期間：3年)

日本標準商品分類番号

871319

承認番号	薬価収載	販売開始
22600AMX00403	2014年6月	2014年6月

広範囲抗菌剤

処方箋医薬品^(注)

日本薬局方 レボフロキサシン点眼液

レボフロキサシン点眼液1.5%「わかもと」

LEVOFLOXACIN OPHTHALMIC SOLUTION 1.5%「WAKAMOTO」

〔禁忌(次の患者には投与しないこと)〕

本剤の成分、オフロキサシン及びキノロン系抗菌剤に対し過敏症の既往歴のある患者

〔組成・性状〕

販売名	レボフロキサシン点眼液1.5%「わかもと」
剤形	点眼剤
成分・含量 (1 mL中)	レボフロキサシン水和物15mgを含有する。 添加物として塩化ナトリウム、ポリソルベート80、 pH調節剤を含有する。
pH	6.1~6.9
浸透圧比	1.0~1.1(生理食塩液に対する比)
性状	微黄色~黄色澄明の無菌製剤

〔効能・効果〕

<適応菌種>

本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、ミクロコッカス属、モラクセラ属、コリネバクテリウム属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプチウス(コッホ・ウィークス菌)、シュードモナス属、緑膿菌、ステノトロホモナス(ザントモナス)・マルトフィリア、アシネトバクター属、アクネ菌

<適応症>

眼瞼炎、涙囊炎、麦粒腫、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎(角膜潰瘍を含む)、眼科周術期の無菌化療法

〔用法・用量〕

通常、1回1滴、1日3回点眼する。

なお、症状により適宜増減する。

<用法・用量に関連する使用上の注意>

1. 本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最小限の期間の投与にとどめること。
2. 本剤におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)に対する有効性は証明されていないので、MRSAによる感染症が明らかであり、臨床症状の改善が認められない場合、速やかに抗MRSA作用の強い薬剤を投与すること。

※※〔使用上の注意〕

1. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。(再審査対象外)

(1)重大な副作用(頻度不明)

ショック、アナフィラキシー

ショック、アナフィラキシーを起こすことがあるので、観察を十分に行い、紅斑、発疹、呼吸困難、血圧低下、眼瞼浮腫等の症状が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(注) 注意-医師等の処方箋により使用すること

(2)その他の副作用

副作用が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

	頻度不明
過敏症	蕁麻疹、そう痒感、眼瞼炎(眼瞼発赤・浮腫等)、眼瞼皮膚炎、発疹
眼	刺激感、びまん性表層角膜炎等の角膜障害、結膜炎(結膜充血・浮腫等)、眼痛、角膜沈着物
その他	味覚異常(苦味等)

2. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]

3. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない(使用経験がない)。

4. 適用上の注意

(1)投与経路 点眼用にのみ使用すること。

(2)薬剤交付時 次のことを患者へ指導すること。

- 1)原則として、結膜嚢内に点眼し、1~5分間閉眼と共に涙嚢部を圧迫すること。
- 2)点眼のとき、容器の先端が直接目に触れないように注意すること。
- 3)点眼のとき、液が眼瞼皮膚等についた場合には、すぐにふき取ること。
- 4)他の点眼剤を併用する場合には、少なくとも5分以上の間隔をあけて点眼すること。
- 5)必ず添付の投薬袋に入れて保存すること。

〔薬物動態〕

生物学的同等性試験

白色ウサギの両眼に本剤又は標準製剤を片眼ずつ30μL単回点眼し、30分後(Tmax)における房水中レボフロキサシン濃度(Cmax)を測定した。得られた房水中レボフロキサシン濃度を対数変換し、その平均値の差を90%信頼区間法にて統計解析を行った。その結果、平均値の差の90%信頼区間がlog(0.80)~log(1.25)の範囲内であったことから、両剤の生物学的同等性が確認された¹⁾。

	Cmax (ng/mL)
レボフロキサシン点眼液1.5%「わかもと」	1418.76 ± 786.84
標準製剤(点眼剤、1.5%)	1453.80 ± 626.73

(Mean ± S.D., n=60)

眼組織中濃度並びにCmax等のパラメータは、被験個体の選択、検体の採取時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

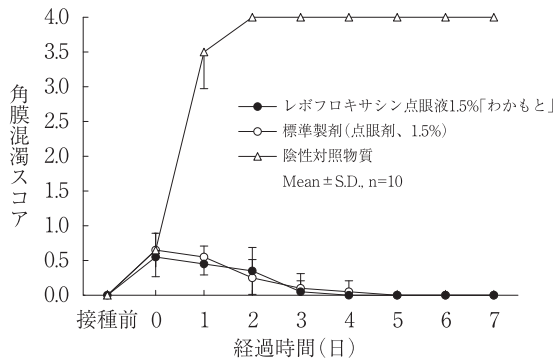
〔薬効薬理〕

角膜緑膿菌感染モデルに対する治療効果(ウサギ)

緑膿菌を接種して作製した実験的ウサギ角膜緑膿菌感染症に対し、菌接種6時間後から本剤50μLを1日6回3日間点眼した結果、投与1日目以降の本剤の効果は、生理食塩液に比して有意であることが認められた²⁾。

生物学的同等性試験

実験のウサギ角膜緑膿菌感染症における角膜混濁スコアを指標とし、本剤及び標準製剤について得られたスコアについてSteel-Dwass型多重比較検定を行った結果、観察期間を通じて有意な差は認められなかったことから、両剤の生物学的同等性が確認された²⁾。



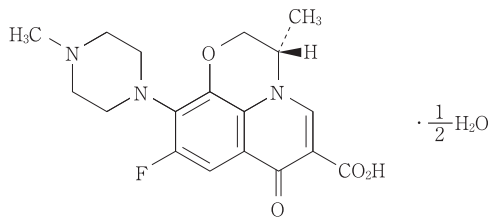
角膜混濁スコアのパラメータは、被験個体の選択、スコア基準、観察時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

[有効成分に関する理化学的知見]

一般名 レボフロキサシン水和物 (Levofloxacin Hydrate)
(JAN)

化学名 (3S)-9-Fluoro-3-methyl-10-(4-methylpiperazin-1-yl)-7-oxo-2,3-dihydro-7H-pyrido[1,2,3-de][1,4]benzoxazine-6-carboxylic acid hemihydrate

構造式



分子式 $C_{18}H_{20}FN_3O_4 \cdot 1/2H_2O$

分子量 370.38

性状 本品は淡黄白色～黄白色の結晶又は結晶性の粉末である。本品は酢酸(100)に溶けやすく、水又はメタノールにやや溶けにくく、エタノール(99.5)に溶けにくい。本品は0.1mol/L塩酸試液に溶ける。本品は光によって徐々に暗淡黄白色になる。
融点：約226℃(分解)。

[取扱い上の注意]

安定性試験

加速試験(40±1℃、相対湿度75±5%、遮光、6ヵ月)の結果、通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された³⁾。

[包装]

レボフロキサシン点眼液1.5%「わかもと」

5 mL×5本、5 mL×10本

[主要文献]

- 1)レボフロキサシン点眼液1.5%「わかもと」の研究報告[生物学的同等性試験(房水中濃度)](社内資料)
- 2)レボフロキサシン点眼液1.5%「わかもと」の研究報告[生物学的同等性試験(感染モデル)](社内資料)
- 3)レボフロキサシン点眼液1.5%「わかもと」の研究報告[安定性試験](社内資料)

※[文献請求先]

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求ください。

わかもと製薬株式会社 メディカルインフォメーション
〒103-8330 東京都中央区日本橋本町二丁目2番2号
TEL 03-3279-0379
FAX 03-3279-1272



製造販売元

わかもと製薬株式会社

東京都中央区日本橋本町二丁目2番2号

©-1 2017.11